

令和8年6月20日
山の辺文化講座

クマと突然出会ったら、 どうすればいいのか？

NPO法人環境市民ネットワーク天理 理事長
大阪動植物海洋専門学校 校長
まほろば両生類研究所 所長
佐藤孝則



1



2

奈良県 農業水産振興課
鳥獣対策係

■ 下北山村は従来から
ツキノワグマが生息して
いる地域

■ クマによる被害は早朝・
夕暮れ時に多い

人を警戒するため
ひとけ
人気の少ない時間帯に活動

奈良県内・クマによる人身被害

2003年度	1件	2021年度	1件
2005年度	1件	2024年度	1件
2016年度	1件	2025年度	2件

紀伊半島のクマ

「絶滅のおそれのある
地域個体群 (1991年)」として
捕獲が禁止

▶ 人への危険がある場合
には捕獲が認められる

3

奈良県 クマ保護管理計画 ABCテレビニュース

これまで



恐怖心を覚えさせて
山に戻す

「学習放獣」

去年10月以降

集落ゾーン

原則
殺処分

集落周辺ゾーン

1回目
学習放獣

2回目
殺処分

4

奈良 クマ出没 近畿で今年初の人的被害

ABCテレビニュース きょうイチニュース

奈良・下北山村 への対策は

対策1

生ごみを
放置しない

対策2

箱わなを
設置する

被害現場から
約5km離れた地区でも
約1時間後にクマ目撃

対策3

放任果樹
の
伐採

奈良県では去年「クマ保護管理計画」が見直されたばかり

5

今日の「おはなし」の流れ

1. 全国で起きているクマによる被害の実態 → **現状**
2. クマ被害が増加した理由 → **原因**
 - ① 生息地の拡大？
 - ② 生息数の増加？
 - ③ 食べ物の不足？
 - ④ 猟師の高齢化？
3. クマ被害を4段階に分類 → **評価**
4. 行政としての対応 → **対策**
5. クマと人間の今後の“すみわけ” → **展望**



6

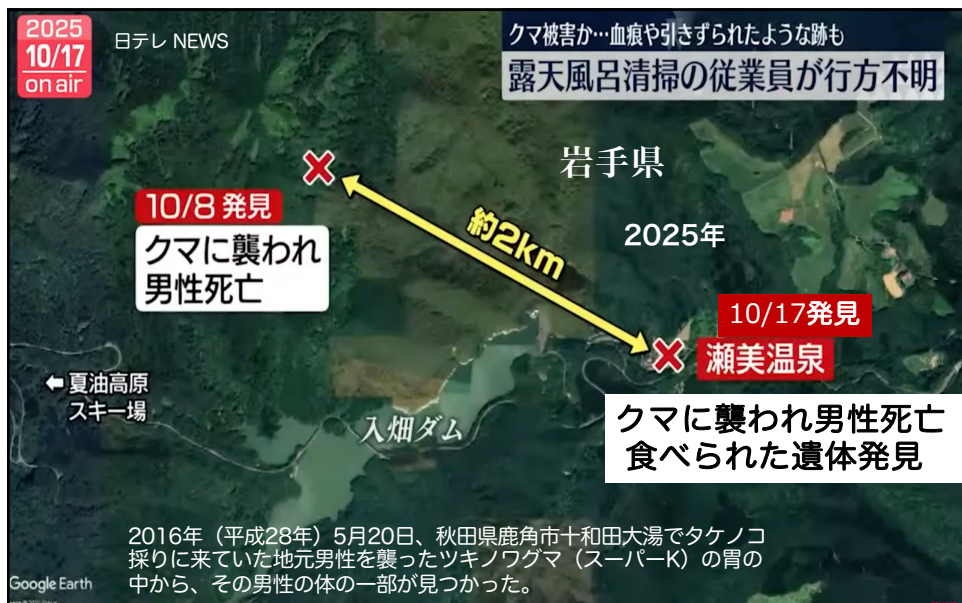
1. 全国で起きているクマによる被害の実態

⇒ **現状**

7



8



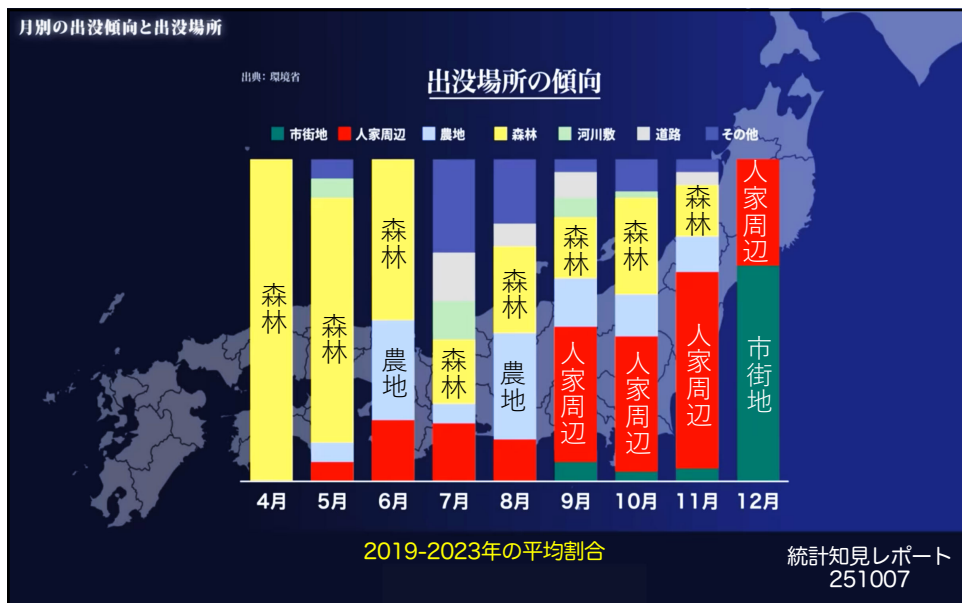
9

2026年のクマによる死亡事例

2026年も冬眠明けの4月以降、山菜採り中の遭遇や生活圏での死亡事故が発生している。

- ・ 4月：岩手県紫波町の山あい（クマに襲われたとみられる女性の遺体が発見）
- ・ 5月：岩手県八幡平市（山菜採り中にクマに襲われたとみられる遺体が発見）
- ・ 5月：岩手県西和賀町（町民の死亡に伴うクマ対策・通行止め等の措置が発生）
- ・ 5月：山形県酒田市（山菜採り中にクマに襲われたとみられる遺体が発見）
- ・ 6月2日：秋田県秋田市河辺和田（安否不明となっていた70代女性の近くでクマが駆除され、遺体を発見）

10



11

カメラがとらえた緊迫の1カ月
列島に広がるクマ被害…恐怖の実態

TAMORI STATION

秋田県 秋田市
11月4日 保育園

秋田・仙北市
午前1時半ごろ

大村美術館 副館長

もしも同一個体なら
エサ探しのルートになったかと危惧

5日（先週水曜）

緊迫！再び美術館に 秋田
巨大クマ“異様な行動”

2025年の東北地方では、
ツキノワグマが、
市街地で昼夜を問わず、
ふつうに歩き回っている。

12



13



14



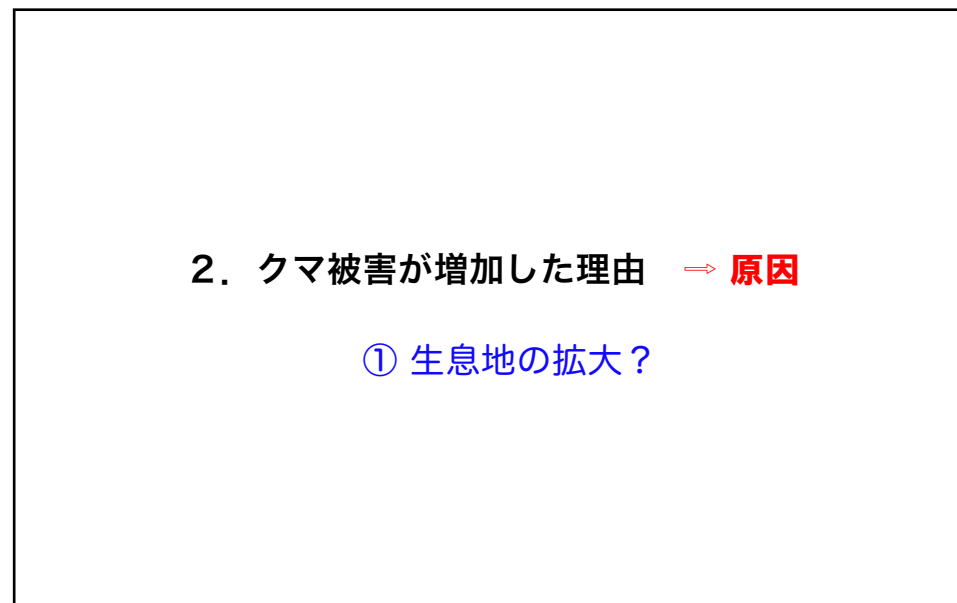
15



16



17



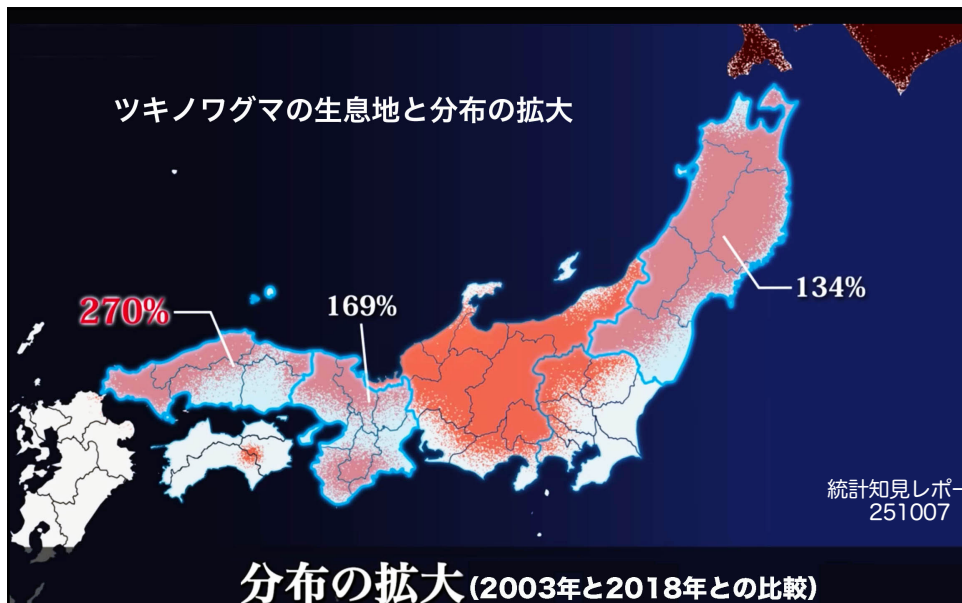
18



19



20



21

2. クマ被害が増加した理由 ⇒ **原因**

② 生息数の増加？

22

ツキノワグマは 1～2月、「冬ごもり」(冬眠)をしている穴の中で、体重250g前後の赤ちゃんを出産します。
その赤ちゃんは穴から出る4月ころまで母乳を飲み続け、体重が2～3kgにまで成長します。
2ヶ月半で体重はおよそ10倍にまで増加します。

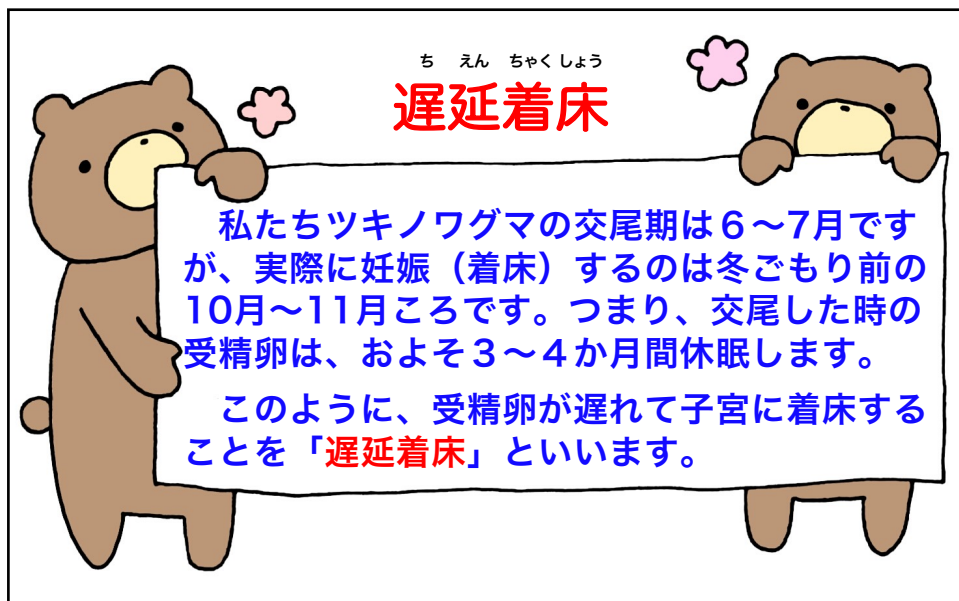
23

子グマの誕生から親離れまで

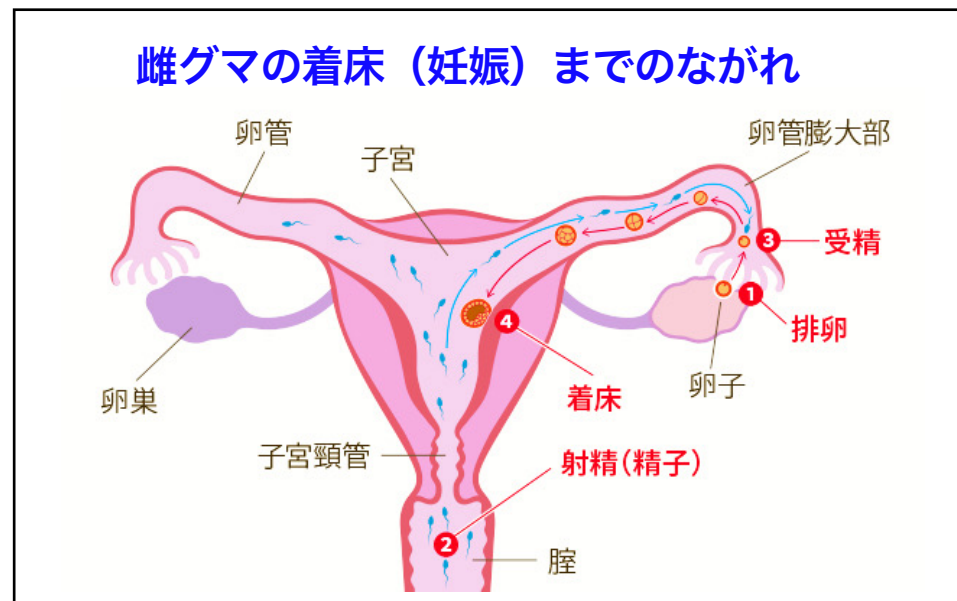
子グマの母グマからの自立

1. 誕生：1～2月（冬ごもり中）
2. 初めての春を迎え、秋まで母親と一緒に行動し、採食や活動範囲を学ぶ
3. 母グマと一緒に2回目の冬ごもり
4. 翌夏、母グマから離れ自立して活動する

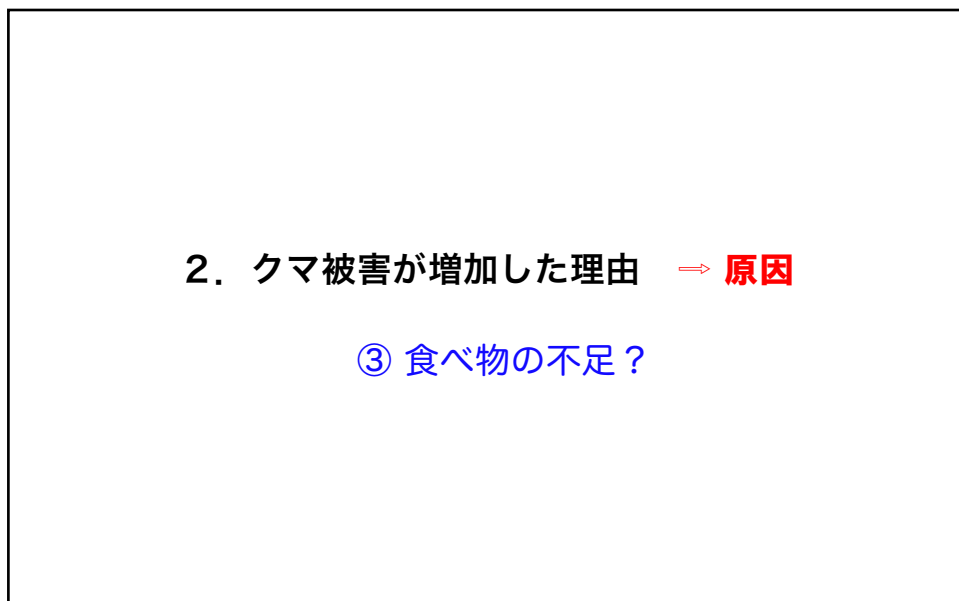
24



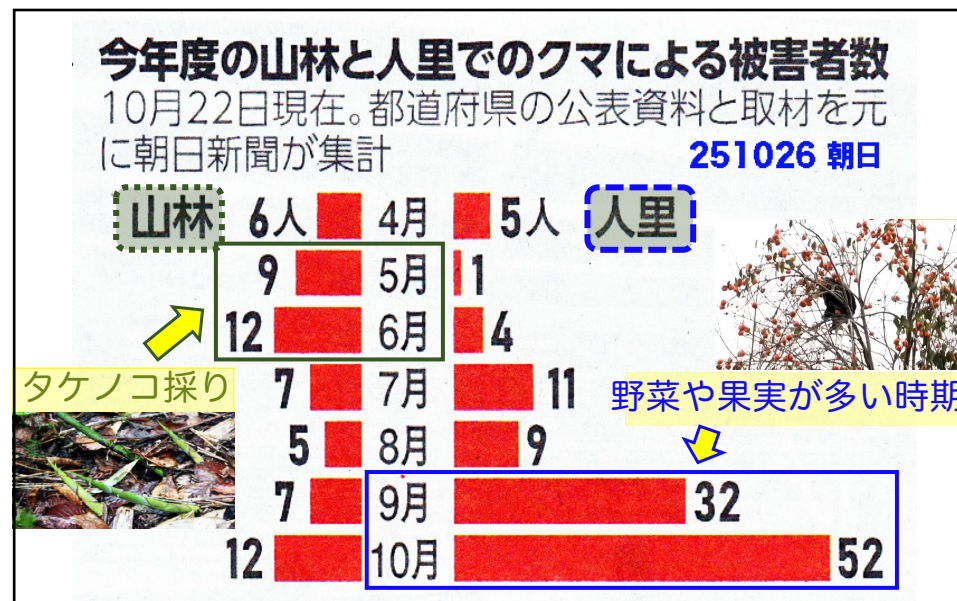
25



26



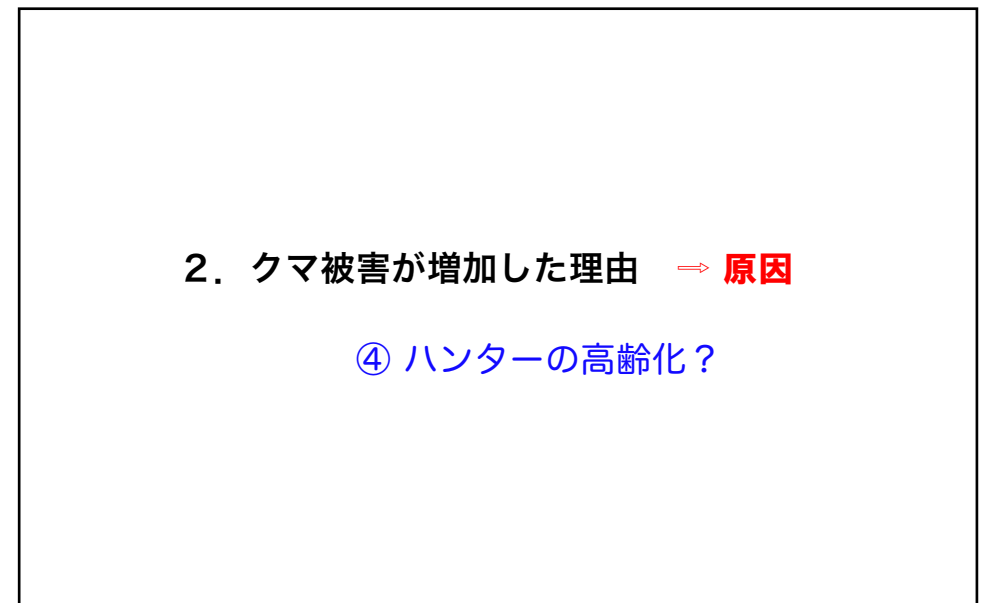
27



28



29



30



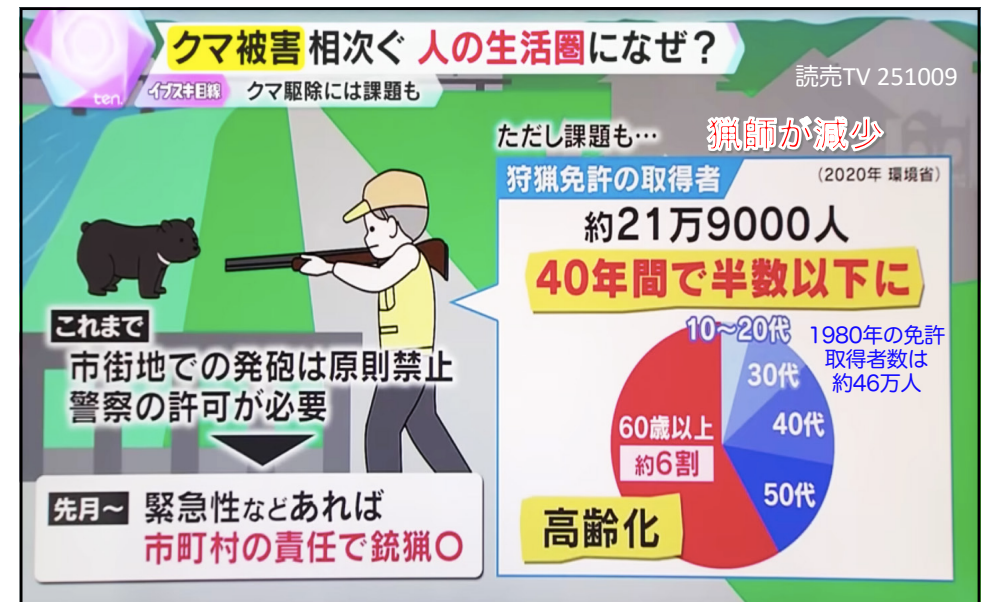
31



32



33



34

3. クマの被害を 4段階に分類

⇒ 評価

クマと人間社会との関係を「4段階」に分類

第1段階 (ステージ1)

- クマは普段は奥山で生活し、人間と出会うことはあまりない。

第2段階 (ステージ2)

- クマは時々、中山間地域 (里山) にやって来て、農作物を食い荒らす。

第3段階 (ステージ3)

- 中山間地域 (里山) が「限界集落」になり、人間が撤退すると、集落に残された果物を食べに現れ、次第にクマは中山間地域に定着する。

第4段階 (ステージ4)

- 中山間地域に定着したクマたちは、平地や市街地を自由に歩き回る。

35

36

第1段階（ステージ1）

- クマは普段は奥山で生活し、目撃することはあるが、人間とうまく共存できている。人間を見ると怖がり、人間との接触を避けようとする。
- クマは人間が出す音に敏感で、音が聞こえる場所での活動を避ける。基本的に人間には危害を加えようとしない。
- クマ鈴で、人間の存在をクマに知らせる効果がある。
- 現在の天理市内はこのような状態。



37

第2段階（ステージ2）

- クマは時々、中山間地域(里山)にやって来て、農作物や果物を食べる。
- クマは人間を見ると基本的には逃げるが、逃げないクマも出現する。クマ鈴はまだ効果はあり、近い距離で出会うと人間を襲うことがある。
- 特に、山にドングリなどの食べ物が少なくなると、中山間地域に現れ、果物や野菜類を食べる。
- この頃はまだ、人間が遠くからが声を出すと、山林へ逃げ帰ることがある。何とか共存できている状態。



38

第3段階（ステージ3）

- 中山間地域は「限界集落」となり、人間が撤退すると、集落に残されたカキ、リンゴ、ナシなどの果物は、クマにとっての格好の食べ物となり、山林のドングリやクリが不作であっても、中山間地域に残された栄養豊富な果物や山林の木の実を食べて、クマは栄養状が良くなる。
- 栄養状態が良くなると雌クマは栄養を繁殖に向け始め、出産頻度が高くなり、クマの生息数は増加し、平地にやってくるクマが増加。



39

第4段階（ステージ4）

- 中山間地域で生息数を増やしたクマたちは、平地（市街地）へ頻繁にやって来る。既に中山間地域はクマたちの生息地となり、奥山と中山間地域はクマにとって自分たちの生活圏として認識するようになる。
- 自分たちの生活圏域と認識したクマは、そこへタケノコ採りに来た人間に対しては、自分たちの食べ物を奪いに来た人間と考え、襲う。
- これは、平地でも同じで、人間を怖がることなく、普通に襲う。

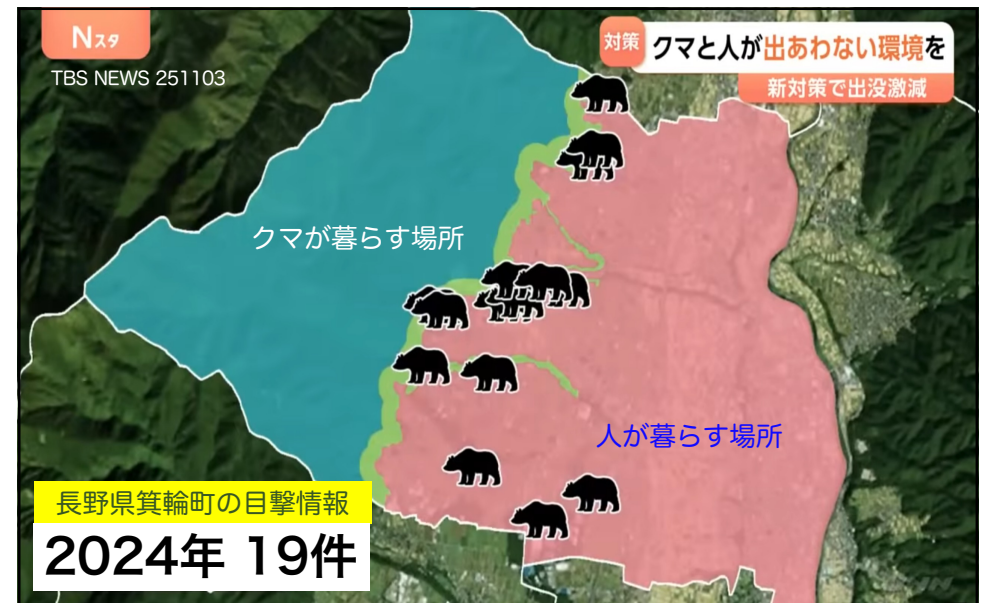


40

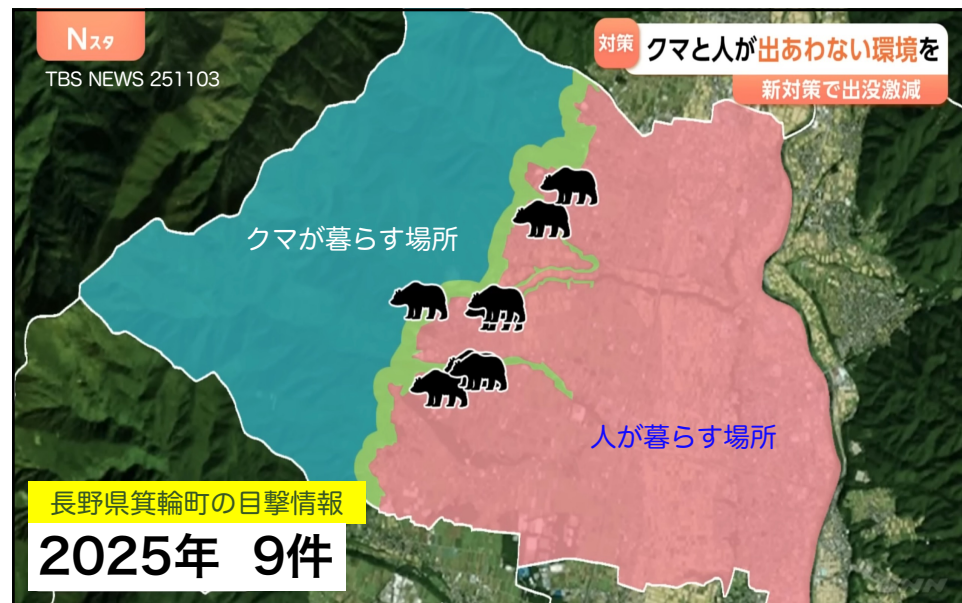
4. 行政としての対応 → 対策

長野県箕輪町の事例

41



42



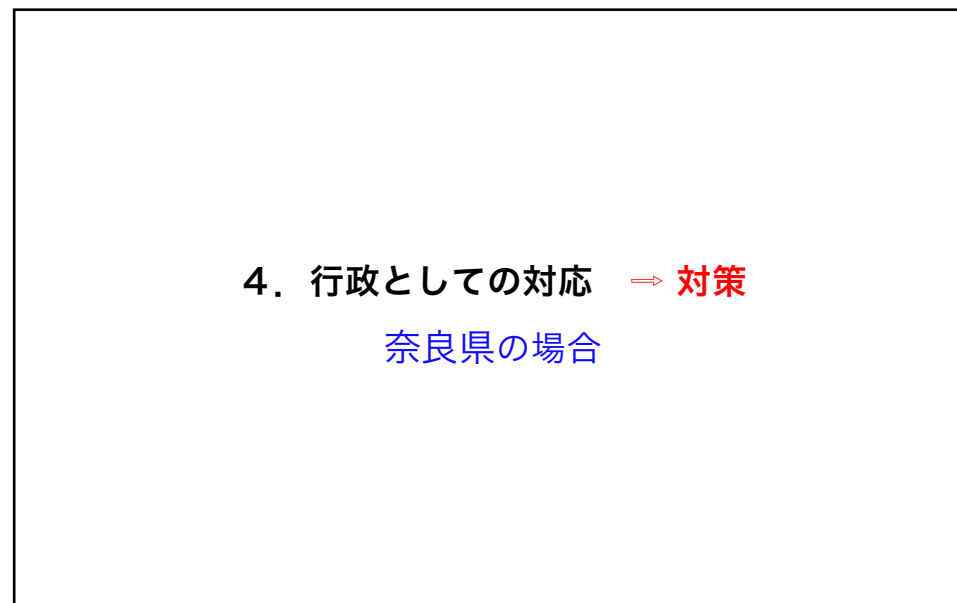
43



44



45



4. 行政としての対応 → 対策

奈良県の場合

46



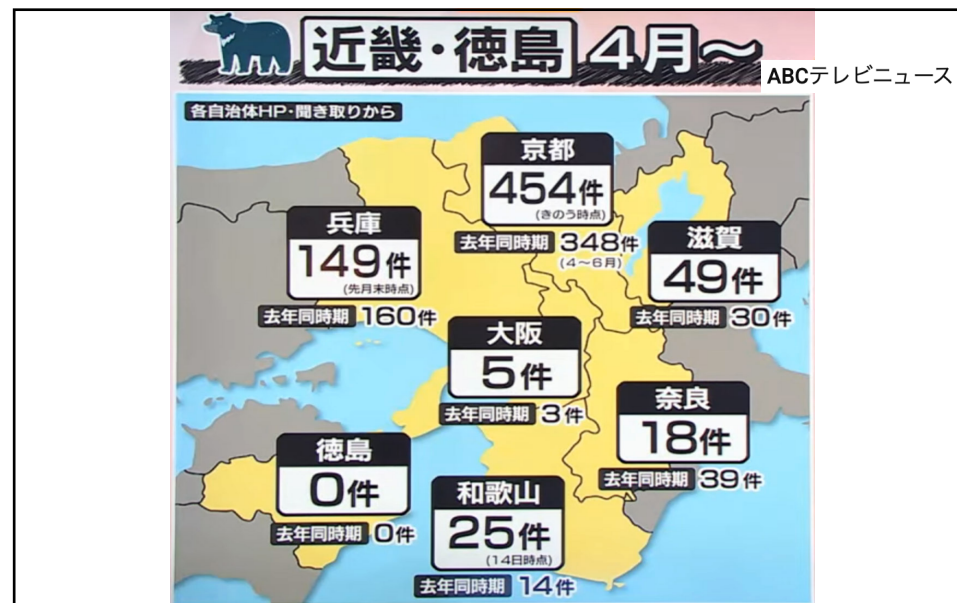
47



48



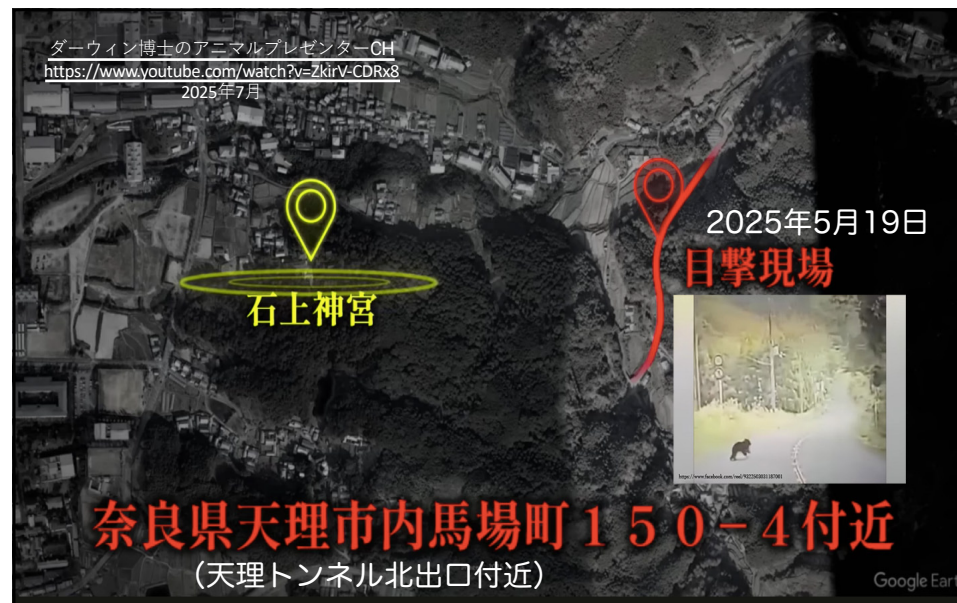
49



50



51



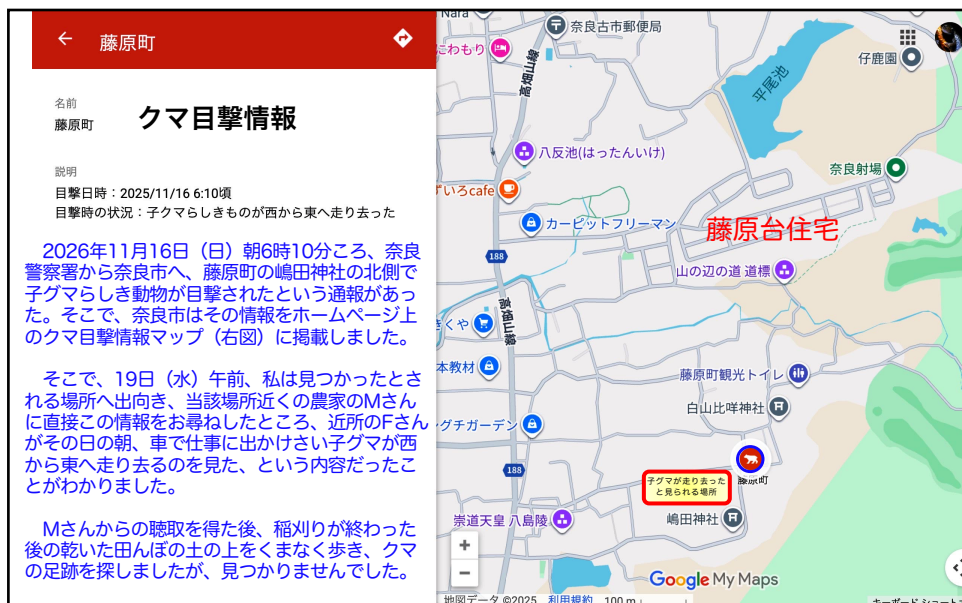
52



53



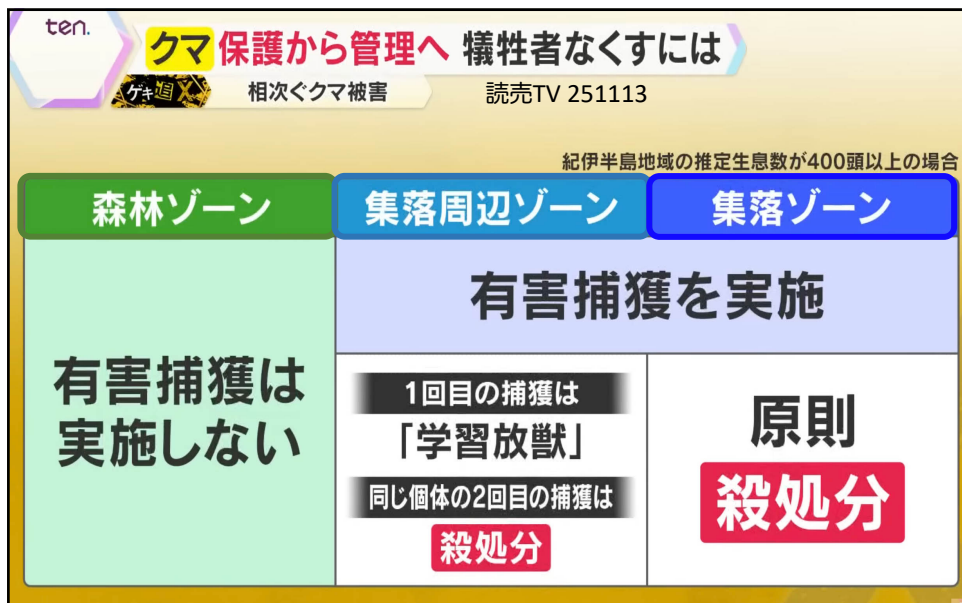
54



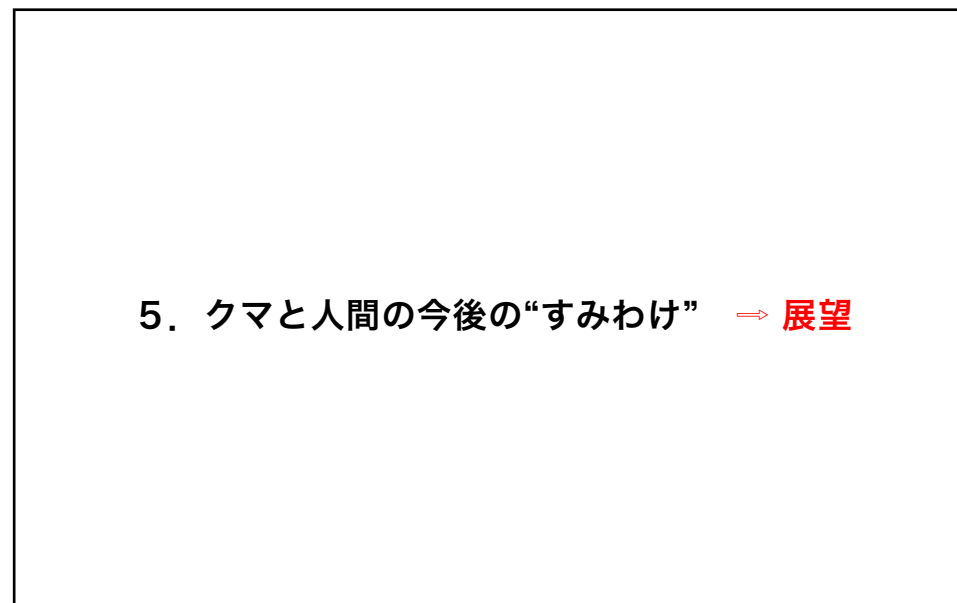
55



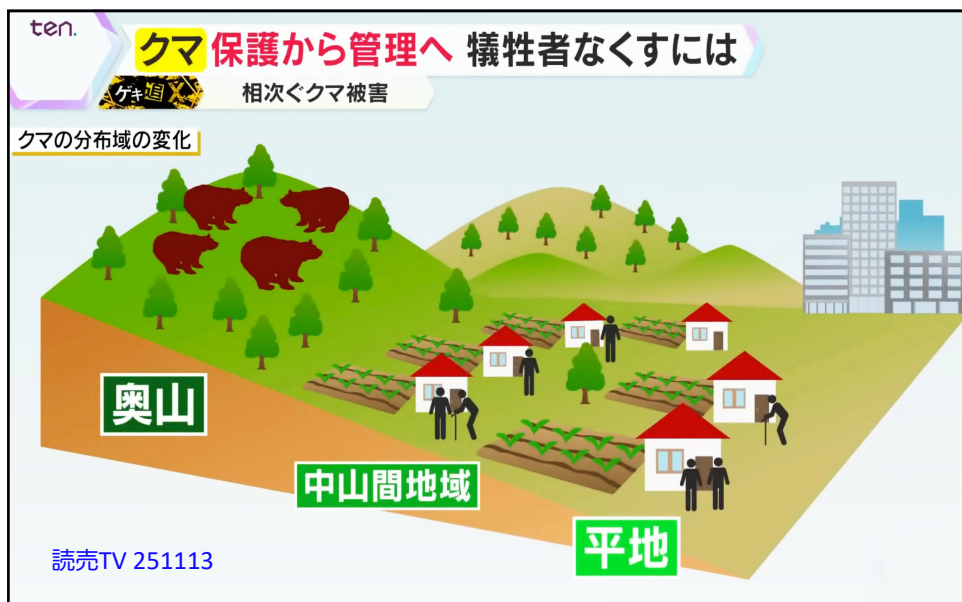
56



57



58



59



60